

令和4年度 学力向上を図るための授業改善推進プラン

教科：音楽科

Research ⇒ 現状分析・課題把握

- 1年生** ・ ・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒チャイムが鳴る前に着席し、本時のねらいを自己評価カードに書き写し、授業に臨むという流れが定着してきている。授業への取り組みも意欲的である。実技テストでは姿勢や声量は概ね良かったが、強弱などの表現技能に課題がある生徒が多い。定期考査は「思考力・判断力・表現力」を問う記述問題の解答状況に課題がみられた。
- 2年生** ・ ・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒チャイムが鳴る前に着席し、本時のねらいを自己評価カードに書き写し、授業に臨むという流れが定着してきている。実技テストでは、ほとんどの生徒が正しい音程、リズムで歌うことができている。良い響きで発声しようと頑張っていた。ただ、大きな声を出すということに抵抗をもっている生徒が多いように感じる。定期考査については、ほとんどの生徒が学んだ知識を活用し意欲的に取り組むことができた。
- 3年生** ・ ・【授業、実技テスト、作品、定期考査などの分析】⇒チャイムが鳴る前に着席し、本時のねらいを自己評価カードに書き写し、授業に臨むという流れが定着してきている。授業態度もメリハリがついており、良い雰囲気を取り組むことができている。実技テストでは、緊張しながらも丁寧に歌唱する生徒が多く、音楽記号や歌詞から自分なりの表現を考え、それを伝えようと主体的に歌う様子がみられた。定期考査については、学んだ知識を活用し「思考力・判断力・表現力」を問う記述問題にも積極的に取り組めた生徒が多かった。

Plan ⇒ 課題解決のための主な取り組み(計画)

《Ⅰ 基礎的・基本的な知識・技能の『習得』》

- 1年生** ・ ・デジタル教科書やワークシートで学習する場面を効果的に設定し、知覚した音楽の特徴と学んだ知識を関連させて理解を深めさせる。技能については、毎時間の発声練習を丁寧にを行い、意識すべきポイントを具体的に声掛けすることで、響きのある声を出すための発声法を習得させる。
- 2年生** ・ ・表現するために必要な知識や技能であることを改めて理解させ、一人一人が積極的に表現できるよう声掛けしていく。少人数授業であることを生かし、一人一人へ丁寧に助言し、技能向上を目指す。
- 3年生** ・ ・学んだ知識をもとに考えたり話し合ったりする場を多く設けることで、深めさせる。また、創意工夫するために必要な技能を身に付けることができるよう、ICT機器を効果的に取り入れ、短時間で効率的に基本的な技能を習得させる。また、少人数での歌唱や演奏の場面を増やし、一人一人へ助言する機会を増やす。

《Ⅱ 思考力・判断力・表現力等の『活用』する力の育成》

- 1年生** ・ ・自分なりに音楽を評価しながら、知覚・感受したことを言葉で表現する活動を繰り返すことで、深めさせる。グループで話し合う活動を積極的に取り入れ、考えを深めさせる。
- 2年生** ・ ・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、相手に伝わる具体的な言葉で表現できるよう、ワークシートなどを通して繰り返し指導し、力をつけさせる。曲にふさわしい音楽表現を創意工夫、知覚したことと感受したことのかかわりについて考えさせる。
- 3年生** ・ ・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、相手に伝わる具体的な言葉で表現できるよう、ワークシートなどを通して繰り返し指導し、力をつけさせる。また、互いの意見を共有する場面も多く設定し、考えを深めさせる。

《Ⅲ『学ぶ意欲や態度』の向上、学習習慣の定着》

- 1年生** ・ ・学期ごとに授業計画と評価について生徒たちに示し、自らの学習の見通しを立てて主体的に授業に取り組ませる。毎時間の自己評価カードを通して、改善すべき点がある生徒には具体的な助言をし、次時への意欲へ繋げさせる。
- 2年生** ・ ・その時間の到達目標を具体的に示すことで、より主体的、協働的に授業に取り組ませる。毎時間記入する自己評価カードを活用し、一人一人の取り組みの状況を把握し、改善すべき点がある生徒には具体的な助言をし、次時への意欲へ繋げさせる。
- 3年生** ・ ・生徒たちの取り組みの状況によって扱う題材、教材の設定を工夫し、より興味をもって意欲的に授業に取り組ませる。自己評価カードやワークシートの記入内容、授業への取り組みの様子を適切に評価し、生徒に伝えることで、よりよく学ぼうとする姿を育てる。